

住み慣れた家で暮らす

戻った素敵 な笑顔

息子さんが見つけ た介護の仕方

担当看護師の一言



眞野久子さん (92)

国立長寿医療研究センターを退院し、住み慣れたご自宅で暮らす眞野久子さん。退院した頃は言葉が少なかったようですが、お孫さんがちよこちよこ顔を見せてくれて、今では久子さんのほうから話しかけてくれます。そんな久子さんのお楽しみはデイサービスでのお友達とおしゃべりとお風呂。お風呂に自分のペースでゆっくりと入れるようになって、喜んでいようようです。

一緒に暮らす息子さんは「退院しすぐの自宅での介護は、自分も初めての体験なので、どうしていいかわからないことが多かった。自分が何でも手伝ってやっていたが、デイサービスに行くようになり自分である程度できることはやってみたらいいと感じた。全部やってあげなきゃいけないかと思っていたけど、そうではなかった様だ。食べたら自分で食器を洗う。洗い残しがあるので、洗ったものを家族が確認している。本人が好きなことを、やりたいうことをやらせてあげてそれをフォローしている」と話してくださいました。介護が継続できていることについて、ご自分が無理をせず、時にはアトリエに行くなどお互いの距離感がいいそうです。退院前からケアマネージャーなど在宅チームと話をしていたことで、自宅での介護をどうしたらいいかわかるようになってきたそうです。

入院中の久子さんは、とても笑顔が素敵で、「杖を使って歩くようになりたい」とリハビリに前向きに取り組んで下さいました。担当看護師と担当リハビリセラピストで決めた病棟訓練は、看護師や介護福祉士と共に健康の森が見渡せる窓までの散歩としていました。久子さんを病棟訓練に誘うと「歩こうかねえ」とにっこりして歩いて下さいました。生活交流リハビリでは、他の患者さんと共に楽しそうに参加して下さいました。担当看護師としても退院後デイサービスを楽しんで下さるだろうと確信しました。また久子さんは、義歯洗浄の手技獲得のために、作業療法士と歯科衛生士と共に一生懸命に取り組んで下さりました。手に力が入りづらい状態でしたが、時には看護師や介護福祉士にも見守られながら、あきらめずに毎日頑張ってくださいました。

